

『不思議な国トルコの旅』

トルコは自然世界遺産と建造物世界遺産の宝庫といわれている場所を観光したかったこと。

概 況

国 名：トルコ共和国

面 積：81万4785 km²（日本の2倍強）

人 口：7041万4000人

首 都：アンカラ（350万人） イスタンブール（1200万人）

政 体：共和制

民族構成：トルコ人・クルド人等

宗 教：イスラム教（99%）

言 葉：トルコ語が公用語・南東部ではクルト語・シリア国境近くはアラビア語

観光内容：トルコだけのバス観光距離は2960キロでトルコ全土の半分を回った。それは日本の2倍の面積、即ち日本全土を6日間で回ったことになり、1日500キロの走行距離になる。（9日間から片道1日往復2日ドバイ観光1日差引き6日間）ホテル着が7時から8時。朝はほとんどが8時出発だった。

『強行軍な旅だけに、終わればいっそうに楽しみ方が倍増する』

ドバイ観光ができる（約半日ではあるが、過去は空港の立寄るだけ）

世界の注目を集めているドバイは半日観光しました。

ドバイはアラビア半島のペルシャ湾に位置する都市、アラブ首長国連邦・『ドバイ首長国』

人 口：2262万人（1980年からの10年で2.5倍。その後の10年で2倍の増加率）

面 積：4114 km²

民族構成：アラブ首長国民 17%

その他外国人（インド人42.3%、パキスタン人7.5%、バングラディッシュ人9.1%、ドバイ以外のアラブ諸国人10.8%、南アジア3国63.1%）

雨季はほとんどなく、気温上昇時は50℃にも昇り、低い時でも20℃まさに砂漠の都市である。街路樹の根元には10ミリ程のホースが見えて、散水して植木を保っている。

だがスキー場があり、しかもリフトも室内とはいえあるから驚く。ゴルフ場もあり想像がつかない都市である。（スキー場はバスの中から鉄塔らしき建物が遠くに見えてガイドの説明だが、ゴルフ場は見えず）

世界一高いドバイの「ブルジュ・ハリファ」高層ビルは828mで、中ほどのある展望階の2階下に210人収容できるレストランは、地上444.2mに位置して世界一とのことである。（現在建設中の東京スカイツリーでは、計画は634mの高さですが電波塔としては世界一だそうです。）

トルコの歴史の存在感と驚くべきドバイである。

以上がドバイ・トルコ この旅の要である。

NO	写真	トルコ 旅行 写真 内容
1	トルコ地図位置	日本からドバイまでは11時間・ドバイからistanbulまでは4時間30分
2	トルコ地図位置	トルコ共和国 面積814758平方キロメートル日本の約2倍強
3	トルコ地図位置	人口70414000人
4	ドバイの街並	ドバイはアラビア半島のペルシャ湾岸に位置する都市。アラブ首長国連邦を構成する首長国。雨季はほとんど無く気温は年間高く40から50度になる。
5	ドバイの街並	4・5の真ん中のビルで昼食して出た左右の写真 街路樹の根元には10ミリほどのホースが見えていたが散水用
6	ドバイのビル	近代的なビルラッシュ
7	ドバイ首領庭の門	大変馬が好きで象徴的に表している
8	世界一高いビル	写真当時は707mでしたが、完成した現在は828m
9	ドバイの代表的ビル	発着は屋上のヘリコプターか地下鉄一泊20万円以上、スイートホームで家族長期滞在
10	istanbul トリカブ宮殿	370年間オスマン帝国の最盛期の宮殿として特に宝物殿があるがすべて撮影禁止
11	トリカブ宮殿	玄関入口(第2宮殿表敬の門)15世紀のistanbulを征服したメフメット二世が建設。3000人の食事を支度できる厨房建物
12	トリカブ宮殿	建物の中ほどは樹木があり建物で影になることはない
13	トリカブ宮殿	この奥には宝物殿があり柄に3つの大きなエメラルドをはめ込んだ黄金の短剣、86カラットのダイヤモンドが陳列、建物・内部一切撮影禁止 列に並び見学のみ
14	トリカブ宮殿	
15	トリカブ宮殿	図書館
16	istanbul アヤ・ソフィア大聖堂	現在は博物館 アヤ・コンスタンチノブル総主教教会として建てられた、外部は常に修復されている
17	アヤ・ソフィア大聖堂	窓はステンドグラス キリスト教とイスラム教の文化が混在している
18	アヤ・ソフィア大聖堂	入口いこいの広場
19	首都 アンカラ	istanbulからアンカラまでは5時間 人口350万人旧市内と新市内が対照的で旧市内の全景(バスの中から撮る)
20	首都 アンカラ	近代的なビルラッシュは新市内(バスの中から撮る)
21	塩湖(トウス湖)	琵琶湖の2.5倍の広さの湖であるが砂浜が塩と砂である。 10分程度の小休憩
22	シルクロード	塩湖(トウス湖)からカッパドキアまで3000kmまでの途中、その昔アラブの商人たちが利用していた商人宿の宿跡はガイドの話(バスのなかからの撮影)
23	カッパドキア	近くにあるエルジエス山が噴火のおり火山灰が雨や風などで侵食してできた現象 歴史も古く紀元前8000年以上前から人が住んでいたと云われている。
24	キヨレメ谷 (博物館)	バスから風景ががらりと変わった、穴だらけの異様な山が一面に舞えてきて何とも不思議な光景に見入っていた。四世紀頃からキリスト教徒が住み始め数多くの洞窟教会を作り信仰を守ったエルマルキリセ・ユランセキリセ・カランルクなど11世紀頃に建てられ保存状態がよく内部の装飾は見事でそれぞれ特徴のある壁画が残された博物館である

NO	写真	トルコ 旅行 写真 内容
25	カッパドキア	バスを降りて歩くこと15分 付近を散策
26	カッパドキア	近くになるほどに巨大なものを感じる
27	カッパドキア	
28	カッパドキア 地下洞窟都市	民族の争いから難を逃れるために縦穴居住、非難場所なんと地下8階ありそれぞれの個室があり集会所・食品部屋などがある(穴は夏冬温度が一定に保たれる)
29	カッパドキア	ここで鉄を作った形跡があり人類はじめての人間とされている
30	カッパドキア 洞窟内レストラン	
31	カッパドキア 洞窟内レストラン	レストラン正面入口
32	カッパドキア	レストラン内部 手のひらのように扉なき個室があり、真ん中ではショーが出来ほどの広い
33	カッパドキア	個室は10人程度・私のバースデーを祝ってくれたが外国の人は大変陽気です
34	カッパドキア	代表的な大きいもの (この山の裏側の山にもこのような住居があるそうだ)
35	カッパドキア	最近までアパートとして使っていたが法律改正で取りやめになった
36	カッパドキア ユルキュップの街	奇岩に囲まれたユルキュップの街 異次元的キョレメの景観である
37	カッパドキア	我ラクダに乗る
38	カッパドキア	何とも不思議な光景
39	カッパドキア	
40	コンヤの町 マプレーナ博物館	カッパドキアから300k 昔のトルコも首都に着いた、両サイドの真ん中の青の塔がすこぶる綺麗だ(よくこの位置からの写真を見受ける 写真の後側が礼拝堂一般者は入れず)
41		
42	バレッカムの街	コンヤからバレッカムまで430k 街路樹は10ミリほどのパイプで水の補給
43	コロッサムホテル	ホテル全景(中庭にプール)とホテル正面玄関4組の結婚式があつて大賑わい(写真は出発前にあわてて撮る)
44	コロッサムホテル 露天温泉	とにかく道中の道のり距離が長くホテルに着いてすぐ食事 露天風呂へと急ぐ照明がうす暗く更衣室が見当たらず女性は大変、適温・ぬるま湯といろいろあった。写真は朝撮る
45	エラボリス遺跡	ローマ帝国時代温泉保養地として栄えた、入口がありここから奥に当時の遺跡が広範囲にあった
46		このような原型をそのまま残しているものやら、半壊のもの柱だけのものだが日本と違ってすべてがいしであり其のままで残っておる
47		範囲が広すぎて回りきれず現地のガイドさんからの説明を聞くのが精一杯でした
48	石灰棚	湧き出た温泉の水 カルシウムが沈殿してできた光景であり現在も湧き出ている靴やら靴下を脱いではいった、暖かく気持ち良かった、

NO	写真	トルコ 旅行 写真 内容
49	石灰棚	
50		ほどなく坂をバスで下りた所で全景の写真を撮るために止めてくれた、 このように広範囲だけが石灰地帯である
51	エフェソフ遺跡	石灰棚から210kカーブの多い道のりを3時間かけて着いたところが古代都市 エフェソフ遺跡、エーヘル海最大の遺跡群である古代の商業の中心である
52		女神アルテミスに捧げられる豊かな富の支援により壮大な神殿は世界の七不思議 の一つである
53		この辺一帯は紀元前三世紀まで遡り28000人ほどの人が住んで居たそうだ、
54		浴場・公衆トイレ・競技場などの遺跡が残っており当時を偲ぶことができる
55	モザイクタイル	左側の写真は坂の中ほどにあり上流家庭の住家で門であろうか 中の一部にはこのようなモザイクタイルが敷き詰めていた
56		
57	エフェソフ古代劇場	エフェソフ都市遺跡の中にこのような広大な円形競技場がある、広すぎて写真 が撮りにくい、ガイドブックから全体を捉えた
58	入口	
59	内部	
60	ケルスス図書館	ローマ全盛時代120万冊の蔵書を誇ったといわれている ここでもでか過ぎて写真を繋ぐとこのようになる、
61		
62	イズミール市 プリンセスホテル	トルコ国内3番目の大都市350万人
63	トルコ風呂	日本でのトルコ(特殊浴場)の名前がここから出たと考えられる、すなわち蒸風呂であって壁にそって 蛇口があり一人一人が体を洗うようになっていた、全体は高温で日本のサウナであった、
64	トロイの遺跡	トルコの代表的遺跡の場である、紀元前3000年から紀元400年までの間繁栄・衰退をくり返してきた、 軌跡は今に伝える遺跡は9層になって入口には巨大な木馬が再現第6市時代
65		の城跡に囲まれた内部にはアレキサンダー大王のアテネ宮殿・ローマ時代の野外劇場がある
66		
67		
68	ボスポラ海峡	アジアとヨーロッパが隣接しており世界での拠点である、この海峡を海底で結ぶ工 事が日本の大林が手がけているとのこと嬉しいことである
69	要塞	1452年イスタンブール侵攻に先立って軍事基地としてヨーロッパ側に建てられ 今に至る
70	モスクと宮殿	左側はオイタキヨイモスク 水辺に浮かんで美しい ドルマバフチエ宮殿全長600m56本の円柱750個のキャンドルが付いている
71	モスクと吊橋	形が変わったモスク ボスポラス大橋はアジアとヨーロッパを繋ぐ最大級の吊橋
72		